令和４年度

宮崎国際大学入学者選抜試験問題

国　　語

国際教養学部

教　育　学　部

注意事項

１．試験開始の合図があるまで、この問題冊子及び解答用紙の中を見てはいけません。

２．この問題冊子は、表紙を含めて 30 ページあります。（問題は２ページからです。）

３．試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、解答用紙の汚れなどがあった場合には、直ちに手を上げて監督者に申し出てください。

４．試験開始後、解答用紙の所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入してください。

５．解答は、問題ごとに、解答用紙の指定された箇所に記入してください。

６．時間内に解答し終わっても、退出することはできません。

７．試験中に質問等があるときは、黙って手を上げて監督者を呼んでください。

８．不正行為について

①不正行為に対しては厳正に対処します。
②不正行為があった場合、その時点で受験を取り止めさせ、退室させます。

一　次の各問いに答えなさい。

問一　次の文の傍線部A、Bのカタカナに該当する漢字の最も適切な組み合わせを、あとの**ア**～**カ**から一つ選びなさい。

被告人弁護団は、大阪地方裁判所の一審判決にA｜イギを唱えて即日B｜コウソした。

ア　A―意義　B―控訴
イ　A―意議　B―抗争
ウ　A―異義　B―公訴
エ　A―異議　B―控訴
オ　A―違義　B―抗争
カ　A―違議　B―公訴

問二　次の文の傍線部A、Bの漢字に該当する読みの最も適切な組み合わせを、あとの**ア**～**カ**から一つ選びなさい。

市長がA｜荒唐無稽な釈明に終始したため、やじやB｜怒号が飛び交って議場は一時騒然とした。

ア　A―こうとうぶけい　B―どごう
イ　A―こうとうぶけい　B―ぬごう
ウ　A―こうとうぶきょう　B―どごう
エ　A―こうとうぶきょう　B―ぬごう
オ　A―こうとうむけい　B―どごう
カ　A―こうとうむけい　B―ぬごう

問三 次の文の空所に入る慣用句として最も適切なものを、あとの**ア**～**オ**から一つ選びなさい。

次の対戦相手は今期まだ勝ち星がないが、油断すると（　　）ので気持ちを引き締めて試合に臨もう。

ア 足元を見られる
イ 足をすくわれる
ウ 足蹴にされる
エ 足を引っ張られる
オ 地に足がつかない

問四 次の文の内容を最も適切に言い表す四字熟語を、あとの**ア**～**オ**から一つ選びなさい。

あの人は、人並み以上の才能や技術、経験を有している。

ア 一騎当千
イ 曲学阿世
ウ 我田引水
エ 天衣無縫
オ 唯我独尊

問五 次の文の空所（　A　）に該当する作家名と空所（　B　）に該当する作品名の最も適切な組み合わせを、あとの**ア**～**カ**から一つ選びなさい。

芸術的な美を重視する耽美派の（　A　）は独自の感性で女性美を追求し、明治末期から昭和中期にかけて活躍した。代表作に『刺青』、『痴人の愛』、（　B　）などがある。

ア　A―田山花袋　B―『布団』
イ　A―田山花袋　B―『虞美人草』
ウ　A―谷崎潤一郎　B―『細雪』
エ　A―谷崎潤一郎　B―『すみだ川』
オ　A―永井荷風　B―『或る女』
カ　A―永井荷風　B―『千羽鶴』

問六 次の文の傍線部A、Bを正しい敬語で言い換える場合の最も適切な組み合わせを、あとの**ア**～**カ**から一つ選びなさい。

お尋ねいただいた件ですが、私は A知らないので、担当の者に折り返しお電話を B するよう伝えておきます。

ア　A―ご存じない　B―していただく
イ　A―存じません　B―差し上げる
ウ　A―存じません　B―していただく
エ　A―わからない　B―差し上げる
オ　A―わかりません　B―申したまわる
カ　A―わかりかねます　B―申したまわる

問七 次の文の傍線部をわかりやすい表現で言い換えるとどうなるか。最も適切なものを、あとの**ア**～**オ**から一つ選びなさい。

山田君は直情径行な性格のため、周囲に煙たがられることがまれにある。

ア ひどく怒りっぽくて何をしでかすかわからない性格

イ 周囲との協調を軽視して自分勝手な行動に走る性格

ウ 深く考えることなくすぐに行動に移してしまう性格

エ 自分の情緒を制御できずに不可解な行動をする性格

オ 自分の感情を偽らずに思った通りの行動をする性格

問八 次の文の傍線部の言い換えとして最も適切なものを、あとの**ア**～**オ**から一つ選びなさい。

国連サミットで採択されたＳＤＧｓのもと、サスティナビリティを重視した取り組みを行う企業が増えている。

ア 温室効果ガス低減性
イ 環境負荷低減性
ウ 省エネルギー性
エ 持続可能性
オ 労働生産性

問九 次の文の傍線部を簡潔に言い換えるとどうなるか。最も適切なものを、あとの**ア**～**オ**から一つ選びなさい。

この四月から施行された民泊条例が、早くも有名無実化している。

ア 広く浸透し、定められた規則が実質的に機能している
イ 広く知られるようになり、着実に効果を上げている
ウ 名ばかりが先行し、内容はあまり知られていない
エ 名はあっても内容が実情に合わなくなっている
オ 名ばかりで内実を伴わないものになっている

問十　次の文章の空所（　A　）～（　C　）にあてはまる語句の最も適切な組み合わせを、あとの**ア**～**カ**から一つ選びなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

私たちの体は日常生活に必要な情報を、五感を通して受容する仕組みになっている。一般に人間の五感は原始的な生活をしている人たちほど鋭敏である。ただし味覚と（　A　）は、文明的な生活をしている人のほうが発達している。そうした違いが生まれた原因は次のようである。原始時代は五感の優れているほうが、食物を探すにも、身を護（まも）るにも有利であった。昔の戦争では遠目の利く人、早耳の人が尊重された。敵に先手を打つことができたからである。

ところが文明の進歩で、五感を助ける機器が開発されるにつれて、視覚も（　B　）もしだいに鈍くなった。反対に（　C　）は文明人が火を使って調理するようになったので、極端なまでの微妙さに進歩したのである。もう1つ進歩したのは（　A　）であった。（　A　）はまだ原始的な形で私たちの体の中に残っていたのである。

レンズを研磨する人の精度は１００万分の１㎜の識別が必要だという。その技術があったから、日本で世界最大の天体望遠鏡が生まれたのであった。

（小原二郎監修、渡辺秀俊・岩澤昭彦著『新装 インテリアの人間工学』による）

	A	B	C
ア	聴覚	触覚	味覚
イ	聴覚	味覚	触覚
ウ	嗅覚	聴覚	触覚
エ	嗅覚	触覚	聴覚
オ	触覚	聴覚	味覚
カ	触覚	味覚	聴覚

二　次の文章は、早見和真（かずまさ）の小説「それからの家族」の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

もう十年近く前の出来事だ。

中枢神経系悪性リンパ腫という脳の病に冒された母が、突然「余命」を宣告された。そのとき、山のような借金に夫婦仲、表層的な親子関係など、長く見て見ぬフリをし続けてきたいくつもの家族の問題が吐き出されるように噴出した。

母の存在を中心になんとか回っていた歯車だ。それが前触れもなく動きを止めようとしていることに、家族はみんな気づいていた。

だからあのとき、僕たちは結託するより他なかった。ずっと距離感をつかみあぐねていた父と、人間的に合わないと思っていた弟と手を取り合うことで、軋（きし）む歯車をなんとか回し続けようとしたのだった。

振り返れば、(a)ひどく類型的で、古い家族の姿だったと思う。寡黙な父と、すぐに責任を負いがちな長男である自分、何を考えているかさっぱりつかめない飄々（ひょうひょう）とした弟。そして、いまにも息が詰まりそうで、会話など成立したことのない三人の男の中心でいつもキラキラと笑っていた、太陽のような母。

その太陽がいまにも沈もうとしていたあの時期、次々と難題に直面する僕に寄り添い、頼りになったのはむしろ弟の俊平（しゅんぺい）だった。物事を重く捉えようとしない軽薄さが当時はなぜか頼もしさに転換して、何度俊平に救われたかわからない。

一方の父は一人おろおろし続けた。旧態依然とした家族を作り上げていながら、期待した「俺に任せておけ」といった勇ましい言葉は最後まで聞くことができず、病院代の工面もままならなければ、間断なく迫られる判断も二人の息子に任せきり。

呆（あき）れる気持ちを押し殺して何かを頼めばそそくさと動くものの、それさえも失敗し、さらに問題を上乗せして帰ってくる。

それまでかろうじて抱いていた父に対する、あるいは父性といったものに対する僕の幻想はあの頃完全に消え失（う）せた。

いや、それこそがずっと見て見ぬフリをしてきたことの正体だったのかもしれない。(b)旧態依然を批判する権利は自分にはないのだろう。

それでも、僕はやっぱり父に期待していたかった。

もっと言うなら、父を尊敬していたかった。

大家族の末っ子として育ち、周囲から愛されるのも、手を差しのべてもらうのも当たり前のように感じている節があり、いつもニコニコ笑っていて、決して敵は作らない。

見た目も悪くないし、小さい頃はクラスの女子に「浩介くんのお父さんって俳優みたいでカッコいいね」と言われ、気分が良くなったこともある。

友だちとしてなら、僕はきっと父を好きになれた。でも、当然ながら「俳優みたいでカッコいい」ことで母を守ることはできないし、家族のピンチは救えない。子どもたちの尊敬は勝ち取れない。

「母のために」という一心で三人の①ふがいない男が結託し、なんとか「余命」の窮地を脱したあの頃、ほんの一瞬、僕たちの関係に変化の兆しが見えた気がした。自分の弱さを平然と認められる父を少しだけ許すことができたし、物事と柔軟に向き合える俊平を素直にうらやましいと思えたからだ。

しかし、(c)それは勘違いだった。僕たちは突然投げ込まれたお祭りにただ浮かれていただけだった。祭りが終わったあとは元の木阿弥。抗がん剤治療を終え、母が自宅に戻ってきた頃には、すでに息の詰まる関係に戻っていた。

当初告げられた余命は優に乗り越えてくれたものの、母はゆっくりと衰弱していった。計五回にわたって再発した脳腫瘍。四回目の治療を終えてアパートに帰ってきたときには、母はもう元の人間性を失っていた。

目の焦点はほとんど合わず、言葉も滅多に口にしない。かろうじて歩くことはできたが家事などできるはずもなく、そもそも火を扱わせるのがこわかった。

仕事は多忙を極めていたが、僕は折を見ては実家に帰った。妻の深雪もまだ幼かった息子の健太を連れてしょっちゅう様子を見にいってくれたし、俊平もたびたび二人を訪ねては何日か泊まっていったりもしていたようだ。

そんなときも、俊平は報告のメール一つ寄越さなかった。こちらから二人の様子を尋ねてみて、二、三日後にようやく『親父、

はりきってて超ウケたわ』などという②要領を得ない返信が来る程度だ。

父と僕、僕と俊平、あるいは父と俊平や、母や妻子を含めた家族みんなという形で顔を合わせることは何度もあったものの、きっとそんな機会が増えるだろうと期待していた男三人での食事などは結局ほとんど実現しなかった。

数少ないそのうちの一回は、母が四度目の治療を終えて退院して間もない頃だ。僕から父にこんなメールを送った直後だった。

『今日、俊平と話しました。もし次にまたお母さんが再発したとしても、僕たちはもう治療させたくないと思っています。これ以上、お母さんの人間性が失われるのがこわいから。でも、これを決断できるのはお父さんだけとも思っています。もしお父さんがそれでも治療を続けていきたいと思うなら、もちろん僕たちは賛成します』

丁寧語と普通語の入り乱れた、あいかわらず距離を取りあぐねたメールだった。父の反応は想像できなかったし、返信の仕方もまた想定外のものだった。

母が病気した直後はメールに対しても電話でしか応じられない人だったのに、僕と俊平の二人に宛てるという離れ業で返事を寄越してきたのである。

『その件に関してはきちんとお前たちと話し合いたいと思っている。近々一緒に帰ってこられないか？　三人で話せたら嬉しいです』

そうして久しぶりに会った父は、とても精悍な顔をしていた。母と二人きりの生活でさすがに逞しさを身につけたのか。そう思わせるほど力の漲った表情を浮かべていたし、俊平も父の姿を見て茶化すように口をすぼめた。

実家のすぐそばの中華料理屋で三人で卓を囲んだ。父が自分で席を予約してくれていた。そんな些細なことでさえ、成長といっていいのかはわからないけれど、(d)父の変化を感じずにはいられなかった。

沈黙に身を委ねる僕と、平然とタバコの煙をくゆらせる俊平。注文したビールで乾杯し、僕たちを交互に見やってから、父は宣言するように言い放った。

「俺も二人の意見に賛成だ。お母さんを、お母さんのまま見送れたらと思ってる。だから俺は悔いのないようにこれからの時間

を過ごしたい。お母さんにもいい時間を過ごさせてあげたいと思っている」

その日の帰り、一緒に最寄りの駅に向かう途中で、俊平は③あっけらかんと口を開いた。歩きタバコを注意した僕を無視してまで口にしたのは、(e)いつかのメールの『超ウケた』についての説明だ。

「あの日、親父のやつ、食べ物をこぼしたオフクロを目の色変えて叱ったんだよね。『お前、もう少ししっかりしてくれよ』『もっとシャキッとしてくれよ』って、一生懸命オフクロの洋服を拭きながら真剣に怒ってたんだ。俺、あのときはマジで自分の耳を疑ったよ。シャキッとなんてできないに決まってるじゃん。四回も頭にがんができて、四回も治療してきてさ。髪の毛もほとんど抜けちゃって、肌はしわくちゃだし、何を見てるのかもわからないし、会話だってあんまり成立しない。昔のオフクロとはもう全然違う人なのに、親父の中ではいまでも明るく潑剌(はつらつ)としたオフクロのままなんだって。驚いたのを通り越して感動したくらいだったよ」

「どういう意味だよ？」

「だって、俺も兄貴もほとんど諦めちゃってたわけじゃない？　もう以前のオフクロは戻ってこない、もう俺たちの知っているお母さんとは別人なんだって、勝手に決めつけて諦めちゃってた。でも、親父はそうじゃなかったんだ。っていうか、親父にはいまも昔もない。あの人にあるのは、いつまでもかわいいお母さんであってほしいっていう願いだけ。それってちょっとすごくない？　なんかめちゃくちゃ愛だなって」

正直、僕にはよくわからなかった。俊平が感動したという理由も、父の振るまいが正しいのかも、それが愛によるものなのかも、何もかもわからなかった。

「お父さん、少しは変わったと思うか？」

しばらくの沈黙のあと口をついた質問に、俊平はおどけたように首を振った。

(f)

「さぁね。そもそも俺は変わってほしいとなんて思ったことないし」

「そうなの？　なんで？」

「なんでって、俺べつに親父のこと嫌いじゃないもん」
「好きとか、嫌いとか、そんな話はしてないだろう。じゃあ、お前はお父さんのこと尊敬できるのかよ」
「はぁ？　尊敬ってなんだよ？　兄貴ってあいかわらずおもしろいこと言うよな。俺は親父を尊敬したいと思ったことなんて一度もない。尊敬とかしないでいい父親で良かったなぁって思うくらいだ」
「なんだよ、それ」
「何が？」
「なんていうか。すごくお前らしいっていうか……」
「いやいや、兄貴の方が兄貴らしいんだって。親父を尊敬って、いつの時代の話だよ。俺はむしろそんなこと言ってる兄貴の方を尊敬するよ」

さすがにポイ捨てまでしたら説教しようと思っていたが、俊平はバッグから携帯灰皿を取り出し、入念に火を揉(も)み消した。

次に俊平と二人きりで話をしたのは、その半年後、母が息を引き取った日の夜だった。「家族みんなで海のそばに住んでみたい」「大きい家で暮らしたい」という夢を叶(かな)えてやることはできなかったが、病気をしたあとにできた新しい家族にも見守られて、最期は微笑(ほほえ)むようにして眠りに就いた。発病から六年半後のことだった。

通夜の晩は嵐のような雨風が吹き荒れていた。(g)変化を望んだ僕と、望まなかった俊平。兄弟の間に正反対の二つの願いがあったのだとしたら、父が叶えたのは弟のものだった。

重苦しい空気が充満する真夏の葬儀場で、喪主としてマイクの前に立った父は、涙を堪(こら)えることができなかった。

用意していた紙を手にし、なんとか口を開こうとするものの、言葉が出てこない。孫の健太の「じいちゃん！　がんばれ！　がんばれ！」のかけ声もむなしく、ついにみんなの前で号泣し始めた父は、「浩介、すまん。あとは頼む」という一言を残して、逃げるように奥の部屋へ引っ込んでしまった。

「兄貴はこれからも大変そうだな。引き続き若菜(わかな)家をよろしく頼むな」という小馬鹿にした俊平の声が、いまも耳に残っている。

別室から聞こえてきた情けない父の泣き声も、あの日の強烈な雨音とともにあざやかに心に残っている。

問一　傍線部①～③の本文中における意味として最も適切なものを、それぞれの**ア**～**オ**から一つずつ選びなさい。

①　ふがいない

ア　意気地がない
イ　仲がよくない
ウ　生活能力がない
エ　人間性に欠ける
オ　たくましさがない

②　要領を得ない

ア　思慮に欠ける
イ　手際がよくない
ウ　道理をわきまえない
エ　やる気が感じられない
オ　要点がはっきりしない

③ あっけらかんと

ア 明るく楽しそうな様子で

イ 突然、意を決したかのように

ウ 何事もなかったかのように平然と

エ あきれて物も言えないという様子で

オ 言いたくて仕方がないといった様子で

問二 傍線部(a)「ひどく類型的で、古い家族の姿」とあるが、それはどのようなものか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア 男兄弟しかいない家庭では、父親と息子たちが友だちのような関係にはならず、互いに距離感をつかみあぐねて心を閉ざしてしまう。そんな重苦しい親子関係でも、快活でしっかりした母親が家族の中心にいて引っ張ってくれるおかげで男たちもしぶしぶと心を開けるようになるという、いまどきにしては珍しい古い家族の姿。

イ 家庭内で封建的に振る舞う頭の固い父親と、そんな父親を疎ましく思う息子たちとの間には、水面下でさまざまな確執が生じている。そんな息苦しい親子関係でも、包容力のある母親の優しい気配りのおかげで親子間の対立が表面化することなくどうにか平穏を保っていられるという、戦前までよく見られた古い家族の姿。

ウ 一家の長としての自覚や威厳がなく頼りにならない父親がいて、父親と息子たち、あるいは息子たちの間での意思疎通は互いにほとんどない。そんな壊れやすいうわべだけの親子関係でも、しっかり者の明るい母親が家族の中心にいるおかげでどうにか家族としての体をなしているという、きわめてありふれた古い家族の姿。

エ　父親がだらしなくて家庭内での存在感が薄いために、長男はまじめで責任感の強い子として育ち、次男は逆に物事を重く考えない軽薄な性格になる。そんな違った個性をもつ男たちを、家族の中心でキラキラと笑っている母親がうまくまとめているために親子間でのもめごとが起こらないという、昔からよくある古い家族の姿。

問三　傍線部(b)「旧態依然を批判する権利は自分にはないのだろう。」とあるが、「僕」がそう考えたのはなぜか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　頼りない父でも心のどこかで尊敬したいという気持ちが多少はあったものの、やることなすこと期待を裏切る言動を繰り返す父を見て、多少なりとも父に期待していた愚かな自分に父や家族を批判する権利はないと思えたから。

イ　頼りがいのない父に対して、いつかは尊敬できる父親になってくれるだろうという期待を寄せるだけで、家庭内の問題に距離を置いてずっと傍観してきた自分に、父や父が作り上げた家族を批判する資格はないと感じたから。

ウ　家族が崩壊しかねない危機的な状況に直面しても大切な判断をすべて息子たちに任せっきりにする父に対して、安易にそれを引き受けてしまうことで父を甘やかしてきた点では、自分も同罪だという意識がめばえてきたから。

エ　家族の危機的な状況に直面しておろおろするだけの頼りない父に、失敗することがわかっていながら頼みごとをするのは父のだめなところとそっくりで、そんな自分が父や家族を批判するのはおこがましいと考えているから。

問四　傍線部(c)「それは勘違いだった」とあるが、「僕」がそのような勘違いをしたのはなぜか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　家族に突然降りかかってきた難局によって、それまで会話も成立しなかった父と息子たちの息が詰まるような関係性が一瞬でも改善されたのは事実だが、それはお祭り騒ぎに乗じて無理やり築き上げた偽善でしかなかったから。

イ　親子や兄弟の関係がそれまでとは違う良い方向に変わったのは、家族に突然降りかかってきた難局を乗り切るまでの間に訪れた一瞬だけであり、それは非日常的なお祭り騒ぎに参加するような形でしか実現できないものだったから。

ウ　息が詰まるような父と息子たちの関係が、突然家族に降りかかってきた難局を契機に改善されたように一瞬だけ思えたのは、初めて三人が一致団結したことによる興奮と異常な精神状態が生みだした妄想だったことに気づいたから。

エ　息が詰まるような父と息子たちの関係が良い方向に変わる兆しを見た気がしたものの、それは家族に突然降りかかってきた難局を乗り切るまでの間、三人が結託して気分が高揚していたためにそう感じられたにすぎなかったから。

問五　傍線部(d)「父の変化を感じずにはいられなかった」とあるが、そのときの「僕」の心情はどのようなものか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　父が変わるとは思えなかったものの、父の振る舞いを見ていると少しは成長したように思えてならなかった。

イ　この期に及んでようやく一家の長らしく振る舞う父を見直して、少しは尊敬する気持ちが生まれてきた。

ウ　息子たちに頼らなければ父は自力で成長できることがわかり、今後は父と良い関係が築けると確信した。

エ　さんざん期待を裏切ってきた父を許せないものの、せめてこの場では温かく見守りたいと思っている。

問六　傍線部(e)「いつかのメールの『超ウケた』についての説明」とあるが、「俊平」が『超ウケた』とメールに書いたのはなぜか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　食べ物をこぼした母に対して目の色を変えて叱り、真剣に怒っている父の姿を見て、夫婦というものは息子ですら立ち入ることのできない特別な領域をもち、強い愛情の絆で結ばれていることを改めて思い知らされたから。

イ　家事も食事も以前のようにはできず、かつての人間性をすっかり失ってしまった母に対して、父は何かと一生懸命に世話を焼き、何事もうまくできない母を本気で叱りつけている姿がほほえましく、純粋におもしろかったから。

ウ　俊平も兄の浩介も以前の母は戻ってこないと諦めてしまっていたが、父は今でも家族の中心でキラキラと輝いていた頃の母のままであると感じていて、母に対してもそのように接している姿を見て強い感銘を受けたから。

エ　以前の母とは別人になってしまった今の母と真摯に向き合って世話をする父の姿は、中華料理屋で父が話した「俺は悔いのないようにこれからの時間を過ごしたい」を愚直に実践していることに驚き、感動すら覚えたから。

問七　(f)の点線で囲んだ「俊平」と「僕」との会話からうかがえるのはどのようなことか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　性格も考え方も違う二人が今の父をそれぞれどのように感じているかを披瀝（ひれき）し合うなかで、改めて兄弟の考え方や価値観の違いが浮き彫りになり、互いに理解し合えることはないだろうということを確認して終わったこと。

イ　性格も考え方も違う二人が今の父をそれぞれどのように感じているかを披瀝し合うなかで、家族における父親という存在に向けるまなざしの違いを双方で確認し合うことができ、互いの距離が少し縮まったように感じたこと。

ウ　性格も考え方も違う二人だが、今の父をそれぞれどのように感じているかを吐露するなかで、兄には兄の、弟には弟の独自の捉え方があり、それは個性の違いとして素直に受け入れるべきであると互いに認め合えたこと。

エ　性格も考え方も違う二人が今の父をどう捉えているかを話し合うのは初めてで、話はかみ合わなかったものの、こうした会話を積み重ねていけば今後は互いの距離も縮まり、良い関係を築けそうなことを確認し合えたこと。

問八　傍線部(g)「変化を望んだ僕と、望まなかった俊平。」とあるが、それは具体的にはどういうことか。次に示す二つの言葉を用いて100字以内（句読点を含む）で記述しなさい。ただし、解答用紙の先頭の一マス目を空けて書かなくてよい。下書きが必要であれば、29～30ページの下書き用原稿用紙を自由に使いなさい。

情けない父　　家族

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は昭和十二年十一月十一日に生まれました。日中戦争が始まり、前年に若い男性が動員されたために、子どもの出生率が下がったといわれた年です。私が生まれた日の新聞を見る機会がありました。何年か前に、誕生日のお祝いだといって学生がコピーをもってきてくれたのですが、それは驚くべきものでした。ただそれを見ても、何も気づかない人が多いと思います。

この日の新聞は、中国大陸のさまざまな地方であった戦闘に関する記事で埋め尽くされていました。ぼくは、それを見て、あっ、と思った。この新聞には、書かれている情報以上に情報があるなと。新聞にはふつう、政治や経済や、殺人、事故、火事などの記事があるもので、それらが雑然と掲載されていて、その時の社会の様子が表現されている。ところが私が見た新聞は、日本軍の戦闘に関する記事しか印象に残らない。この新聞には、「今の日本には戦争以上に大切なことはない」ということが、メッセージとして込められているのではないか、と気づいたのです。何が大事か、何を大事と考えるべきか、語らずして語っている。あるメッセージを、明示的に言い表すことなく理解させるという高等テクニックです。そして、この背後にあるメッセージを、メタメッセージと言います。

戦後、軍国主義批判が流行(はや)りました。しかし今、軍国主義とは一体何だったのか、どういう主義だったのかを調べようとしても、何も見つからないだろうと思います。軍国主義は、マルクス主義(注)のように、なにか典拠とする書物があるようなものではありませんでした。ケイ①――トウ的な主義主張もなく、言葉を介したものでもなかったので、その足跡をたどるのはむずかしいのです。私は、自分の誕生日の新聞を見て、ああ、こうやって軍国主義が形づくられていったのだと妙に納得するところがあった。

もちろんあの時代には、直接ああしなさい、こうしなさいという指示もあったし、こう考えるべきだという思想的な教導もあったのですが、それよりも強く人々の考えをつくったのは、形で示されるメタメッセージだと思うのです。直接何か言われると、人によっては反発することもあります。戦闘記事で埋め尽くされた新聞は、殺人、事故、火事などよりも大切なものがあるのだと、その紙面構成で語っていた。(a)メディアの本当の功罪はここにあるでしょう。

一つひとつの記事の中身に、虚偽や②コチョウがあるかどうかではない。問題は、言葉による伝達とは違う形で、メタメッセージがあったということなのです。当時の新聞記者にすれば、中国での戦闘は国の将来を左右する重大事項であり、それを取材し記事にすることこそ、もっとも重要な仕事という認識だったのでしょう。それに比べれば、個人の家の火事なんてどうでもいいということになる。もっと大切なものがあるのだということ、それが言葉で語られるのではなくて、紙面構成に強烈に現れるのが、軍国主義というものの姿なのです。

ただ、これは、ふつうの人は気づかないだろう、意識できないのだろうな、とも思うのです。ぼくは、へそ曲がりだからわかった。十一月なんて空気が乾いてくるんだから、火事のひとつやふたつはあるに決まっている。それなのに、なんでこの新聞には載ってないのだろうと考えた。形だけでメタメッセージをつくること、(b)これはかなり高級なことです。

メタメッセージは、記事、広告、宣伝などを見た人が、直接には表現されていないメッセージや表面に現れている意味以上のメッセージを、読み取ることを期待してつくられます。メタメッセージが背後にあるのかどうか考えると、記事や広告、宣伝の見え方が変わってきます。

つくり手は、どう言外にイメージをつくるか、頭をひねる。受け手が自分の中につくり上げるメッセージを計算するわけです。本当に伝えたいことは、直接言い表さず、受け手がつくり上げるメッセージのほうに込める。

テレビのコマーシャルを考えると、わかりやすいと思います。インスタントコーヒーの宣伝で、「違いがわかる男」というコピーがありました。あれは、逆立ちしてもインスタントコーヒーですから、ちょっと考えれば、矛盾に満ちた言い方であることがわかります。だからどうした、っていうものです。でも名優や、名指揮者と言われる人が、コーヒーカップを片手に登場して、「違いがわかる男」というテロップを流すことで現れる効果が絶妙なのです。「違いがわかる男はこのコーヒーを楽しんでいる。あなたがもし違いがわかる男ならば、このコーヒーを飲まないはずはない」。あえて言葉にするならば、こういうメタメッセージを発信しているのです。あのように重々しく表現すると、なんとも言えない雰囲気が出て、メタメッセージが印象深く視聴者の中に残るという仕掛けです。このＣＭを見ている人が何を感じ、どう考えるかということが、計算し尽くされています。

広告業界には知恵者がいるものだなと感心します。食べ物の広告で、「○○はおいしいよ」と言ってもあまり効果は期待できません。直接的なメッセージは、意外に③ヒリキの場合がある。それを知り尽くしていて、コマーシャル全体でメタメッセージを発信するようにつくるプロがいる。

情報を水に喩(たと)えれば、メタメッセージは、上手に溝を掘って水を流すようなところがある。溝は掘ったけれど、流れたのは水であって、オレのせいじゃないというわけです。直接言っていないのだから、見た人が何を思おうと、責任はない、と。

最近、週刊誌でよく見かけるタイトルのひとつに、「寝たきりにならない食事特集」というようなものがあります。（中略）

雑誌のほうは、「こういうものを食べなさい」、あるいは、「ああいうものは食べてはいけません」と言っているだけなんです。でも、こういうメッセージを出し続けると、それを読んでいる人は何を理解するか。それは、「体は、意識でコントロールできるものである」ということです。

「こうすれば、寝たきりにならない」、というのは、つまり「ああすれば、こうなる」という思考法です。この思考法は強力、強烈で、人の人生をつまらなくし、場合によっては人を不幸にしている原因のひとつです。もし、「ああすれば、こうなる」ですべてがすむなら、世の厄介ごとはほとんど解消してしまうでしょう。そして同時に、(c)そういう世界は、生きていてもおもしろくない。

ことは食事だけにはとどまらない。手を替え品を替え、「ああすれば、こうなる」式の情報が発信され続けている。それで人々は、「要するに意識的に日常生活をコントロールすれば、寝たきりにならないですむんだな」と了解するわけです。これも、暗黙のうちに形づくられているメタメッセージです。

はっきり言いますが、このメタメッセージはウソ。それならなんで人は死ぬんだよ、ということです。意識で体がコントロールできるなら、死にたくないと思っている人は死なないですむはずです。

「○○は××のリスクが高いからやめたほうがいい」と意見されることがあります。タバコが最たるものですね。でも、このロ

ジックでやっていくと、人生はどんどんヒン④ソウになっていきます。ぼくがよく出すのはラオスの例です。ラオスに虫捕りに行くと、国内航空を利用することになるのですが、どういう飛行機が飛んでいるか、日本の飛行機のプロに説明すると、いっせいにみんな青ざめます。それは乗ってはいけない飛行機だと言うのです。乗っちゃいけないと言われたって、乗らなければ虫捕りはできません。こっちだって、予定があって動いているんだし、飛行機に乗らなければ、時間がかかってどうしようもない。

ラオスの飛行機はおもしろいんです。ずいぶん前のことになりますが、飛行機が離陸して高度を上げると、機内には水蒸気が充満して、隣の人の顔も見えなくなった。飛行機の中が視界不良になったのですから、これにはさすがにびっくりしました。地上が暑いので、急に上がると、空気が冷え、霧が出るのです。

話を聞いてみると、乗っていた飛行機は、かつてソ連で使っていた中古を買い取ったものでした。中国が生産したもので、もともと二五機あったけれども、うち二三機は、すでに故障したか墜ちてしまった。そこで彼らが何を言うかというと、「だから、今飛んでいる二機は大丈夫だ」。故障すべきもの、墜ちるべきものは、すでにそうなっている。あなたが乗っているのは、故障や墜落のリスクがないとわかっている機体だ。

ぼくは、リスクの計算と言ったって、一通りじゃないなと思ったのです。彼らはリスクに対してそういう計算の仕方をする。ある意味ではもっともだし、ある意味では何めちゃくちゃを言っているんだ、となります。ただ、ふつうの人のリスクに対する感覚は(d)そんなものじゃないかなという気がしてなりません。環境問題や原発問題など、あるリスクと別のリスクを計算して比較するなどと言いますが、わかるわけないじゃないか、それは仮定の問題じゃないか、と思っています。これからのことですから、厳密に考えれば、わかるわけはないのです。

そして、それで寿命が縮んだらどうするか、と言う人に答えたい。自分の寿命は計算できません。多くの人はここを誤解しているように思います。寿命を延ばすつもりでリスクを避ければ、たしかに長生きの可能性は高くなるでしょう。できるだけじっとしていれば、交通事故のリスクは減ります。それでも私はじっとしていられない。アフリカに行くなら、さんざん飛行機に乗らなければならない。つまり、事故のリスクは増していきます。

こんな小咄（こばなし）があります。

患者さんのところに医者がきて⑤シンミョウな顔で言う。「あなたの病気、やっと診断がつきました。この病気では、一〇〇人のうち九九人が死にます」。患者さんの顔は真っ青になる。その時医者は、「でも、あなたは助かりますよ」と言った。当然、患者さんは「どうしてですか」となる。「［　　(e)　　］」。

この場合、本当は、どんな人だって生き残る確率は一〇〇分の一です。それが、この医者の論法だと、この患者は生き残る唯一の人ということになる。致死率九九パーセントという確率も、視点を変えると、生存率一〇〇パーセントになってしまうのです。

（中略）

［A］確率というのがあやしいのです。有限なデータがもとになっているにもかかわらず、［B］、考えなければならないのは未来のことです。有限の母集団での予測を、無限の母集団に当てはめようとしても、究極的にはどうなるかわからないというのが本当のところだと思います。［C］、議論はいくらでもできるのですが、端的に言えば、「ヒマだなあ」ということになる。現実は決して待ってくれません。

これまでの例からもうおわかりだと思いますが、近代人は意識でものを片付けたがるのです。そして、そういう考え方が正しいとも信じています。体という自然は、意識でコントロールしきれるものではないのに、それを意識でなんとかしようとしていることで、(f)さまざまな悲喜劇が生まれているのです。

（養老孟司『庭は手入れをするもんだ　養老孟司の幸福論』による。出題にあたって一部を改変した。）

（注）マルクス主義――ドイツの経済学者マルクスとエンゲルスが打ち出した諸理論の体系。科学的社会主義ともいう。

問一　傍線部①～⑤と同じ漢字を含むものを、それぞれの**ア**～**エ**から一つずつ選びなさい。

①　ケイトウ

ア　めきめきトウカクを現す
イ　学校をトウハイゴウする
ウ　樹木がトウカイする
エ　トウシュ討論会を開く

②　コチョウ

ア　ウツろな目で空を見上げる
イ　有名企業のフンショク決算
ウ　ホコらしげな顔をする
エ　運送会社にヤトわれる

③　ヒリキ

ア　ヒジョウ事態宣言が出される
イ　被告人にはモクヒ権がある
ウ　容疑をヒニンする
エ　ケイヒを節減する

④ ヒンソウ

ア フタゴの姉妹

イ サワやかな朝の空気

ウ 美しい音色をカナでる

エ 彼とはアイショウが悪い

⑤ シンミョウ

ア イミシンチョウな笑みを浮かべる

イ シンシンソウシツによる刑の減刑

ウ 科学がシンラバンショウを解明する

エ 転職を契機にシンキイッテンする

問二 文中の空所 A ～ C にあてはまる言葉の最も適切な組み合わせを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア A―もっとも　B―ところが　C―おまけに

イ A―もちろん　B―それでも　C―なぜなら

ウ A―そもそも　B―しかし　C―もちろん

エ A―もともと　B―やはり　C―逆に言えば

問三　傍線部(a)「メディアの本当の功罪はここにあるでしょう。」とあるが、筆者がここで伝えたいのはどういうことか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　メディアは政治権力を監視し批判する大切な役割を担う一方、権力にとりこまれて政府に都合のよい情報だけで紙面を構成し、たとえば軍国主義の思想形成に協力するといった危険性を常にはらんでいるということ。

イ　メディアは日々の出来事や事実を中立的な立場で伝える役割を担うが、紙面構成を工夫して形として示すメタメッセージによって、たとえば軍国主義の思想を広めるといった偏向報道をひそかに行っているということ。

ウ　メディアは社会の様子を広く国民に伝える大切な役割を果たすが、言葉ではなく紙面構成から形として伝わるメタメッセージによって、たとえば軍国主義の強化に加担してしまうといった負の面をあわせもつということ。

エ　メディアの良い面は、さまざまな出来事や事実を広く知らせてくれるところにあるが、実は紙面構成を工夫することで伝わるメタメッセージによって裏では巧みな世論操作をしているという邪悪な一面もあるということ。

問四　傍線部(b)「これはかなり高級なことです」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　言葉では伝わらないメッセージなりイメージなりを読者や視聴者の頭の中に結ばせるように綿密に計算し、そのうえで情報を包み込むパッケージの形を作り上げるのには、非常に高度なテクニックと知恵が要求されるため。

イ　メタメッセージは情報の受け手がどのようにでも解釈できる多義性が特徴であり、それを発信する側には人間心理の複雑さや多様性の理解に加えて、言葉に対する鋭敏な感受性と高い言語操作能力を必要とするため。

ウ　伝えたいメッセージを平凡な言葉で発信するのと違って、メタメッセージは受け手の心理を知り尽くしたうえで情報を編集・加工し、読者や視聴者の心に響く洗練されたキャッチコピーとして練り上げる必要があるため。

エ　教養の高い読者や視聴者は、メディアが発信する情報に埋め込まれたメタメッセージの存在を知っており、そうした人に向けて隠されたメタメッセージを作り上げるには、彼らより高い教養や知識を必要とするため。

問五　傍線部(c)「そういう世界は、生きていてもおもしろくない」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　「ああすれば、こうなる」式の情報は科学的根拠があってのことだが、「ああする」ことで必ず「こうなる」という保証はどこにもない。それなのに「ああする」のは、科学に屈伏させられているようでおもしろくないから。

イ　「ああすれば、こうなる」式の情報をむやみに信用すると、たとえば「この石を買うと幸せになる」といった怪しげな商法にだまされやすくなり、幸せになるまで石を買い続けて財産を失うといった人生の不幸を招きかねないから。

ウ　「ああすれば、こうなる」式の情報を信じるも信じないも個人の自由である。しかし、大多数の人がそれを信じている世界では信じない人が少数派となり、肩身の狭い思いをしながら孤独な人生を送るはめになってしまうから。

エ　「ああすれば、こうなる」式の情報を信じて実践しても、必ず「こうなる」とは限らず「こうならない」ことも当然ある。それなのにやりたいことを犠牲にしてまで「ああする」のは人生の楽しみをみずから奪うことになるから。

問六　傍線部(d)「そんなもの」とあるが、それはどのようなものか。最も適切なものを、次の**ア**～**エ**から一つ選びなさい。

ア　たとえば気象庁が発表する天気予測のように、統計学的根拠が明確な確率計算なら信用できるというリスクの捉え方。

イ　たとえば医師が告げる「五年生存率」のように、医学的根拠が明確な確率計算なら信用できるというリスクの捉え方。

ウ　たとえばラオスでの飛行機の墜落リスクの計算方法のように、いい加減だが真っ当といえなくもないリスクの捉え方。

エ　たとえばおみくじで凶を引いたとき、科学的根拠はなくても気になるので言動には注意しようとするリスクの捉え方。

問七　文中の空欄(e)には患者の問いに対する医者の返答が入るが、この小咄を成立させるためのセリフを考えて50字以内（句読点を含む）で記述しなさい。ただし、解答用紙の先頭の一マス目を空けて書かなくてよい。下書きが必要であれば、29～30ページの下書き用原稿用紙を自由に使いなさい。

問八　傍線部(f)「さまざまな悲喜劇が生まれている」とあるが、あなたの身の回りや社会で起こっている、あるいは起こっていそうな「悲喜劇」の事例を一つ挙げ、100字以内（句読点を含む）で記述しなさい。ただし、解答用紙の先頭の一マス目を空けて書かなくてよい。下書きが必要であれば、29～30ページの下書き用原稿用紙を自由に使いなさい。

《下書き用原稿用紙》20字×10行

《下書き用原稿用紙》20字×10行

令和４年度宮崎国際大学入学者選抜試験問題【国際教養学部・教育学部】

国語　解答用紙

一

問六	問一

問七	問二

問八	問三

問九	問四

問十	問五

二

問八	問二	問一
		①
	問三	
		②
	問四	
		③
	問五	
	問六	
	問七	

三

問八	問七	問三	問二	問一
				①
		問四		
				②
		問五		
				③
		問六		
				④
				⑤

受験番号	
氏　　名	

計	三	二	一

※この欄には何も記入しないこと。

令和4年度宮崎国際大学入学者選抜試験問題【国際教養学部・教育学部】

国語　解答用紙・解答と配点

一

問一	問二	問三	問四	問五
エ	オ	イ	ア	ウ

問六	問七	問八	問九	問十
イ	オ	エ	オ	オ

受験番号	
氏　　名	

二

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七
①ア	ウ	イ	エ	ア	ウ	ア
②オ						
③ウ						

問八

僕は情けない父に対して家族を一つにまとめ上げる力を持った尊敬できる父親に変わってほしいと願っていたが、俊平は情けない父のままを受け入れ、むしろ変わってほしいということ。

（97字）

三

問一	問二	問三	問四	問五	問六
①イ	ウ	ウ	ア	エ	ウ
②ウ					
③ア					
④エ					
⑤イ					

問七

私がこの病気だと診断した患者はこれまでに九九人。あなたは一〇〇人目ですから

（37字）

問八

健康診断でメタボと診断され、健康のためにダイエットを始めたが、なかなか体重が減らないので食事の量を減らし続けているうちに体力や免疫力が弱まり、逆に命が危険な状態になって入院するはめになってしまった。

（99字）

《採点基準》

二　問八　「僕は情けない父に変わってほしかったが、俊平はそうではなかった」をひな型として、「僕は今の情けない父が家族を守れる強さをもった父親に変わってくれることを期待していたが、俊平は……」など「家族」の語句を挿入し、全体を意味のある文章に整えて60字を超えていること。「情けない父」と「家族」の両方の言葉が入っていなければ0点。

解答例に書かれていることと同じ趣旨であれば、多少文章が拙くても冗長でも6点満点。本文の趣旨をふまえたうえで、解答例のような事例が書かれていれば6点。多少リアリティに欠けていても創作っぽくても「意識で体をコントロールしようとすることで生じる悲喜劇」の事例であれば6点満点。

三　問七　誤字・脱字や「て・に・を・は」などの文法的な乱れは一カ所につき1点減点。

問八　言いたいことはわからないでもないが、日本語として意味が通っていない文章は3点減点。

＊共通

計	三	二	一

三（小計 40 点）
問一　各 1 点× 5 ＝ 5 点
問二　3 点
問三～問六　各 5 点× 4 ＝ 20 点
問七　6 点
問八　6 点

二（小計 40 点）
問一　各 2 点× 3 ＝ 6 点
問二～問七　各 4 点× 6 ＝ 24 点
問八　10 点

一（小計 20 点）
各 2 点× 10

※この欄には何も記入しないこと。